

# 高速道の無料化で

## 交流人口を増やす対策を



### 問

日本一もうかる、ご当地グルメを昼食として開発することを検討すべき。6月から高速道の無料化により350万人の住む道央圏と直結され、パークゴルフ発祥コース体験の観光人口の増加が想定される。しかし、素通りされないため十勝は一つなどと甘い言葉に惑わされることなく、幕別の強みの再発見を行い立ち寄る町にすべし、幕別オンリーワンの食を開発する検討を。

また、40km離れて開催時期も違う各々のイベントを時空を超えて連携させるためには、幕別と忠類に広大に存在する農地と生産品を主人公にして、共通の食とストーリーを持たせるべき。

それと、職員のやる気が感じられる忠類地域活性化診断が進行中で街を元気にする出発点に住民と共にたち、食のプロの眼をかりて

地域力をつけて交流人口を増やすと同時に、人材・食材・お金を官民連携のもといかに出し合うかを検討すべきである。

町長が食を通じて幕別らしさを実現させる研究・開発・販売をめざすと号令を出してくれば良く、食で町おこしをやりたい町民が、今か今かとじりじりして待っている。町長は、新聞で語った通り、職員を外に出し住民が行政に何を求めているかを把握して、先頭に立って実践していただきたい。

十勝に目を向けさせることが重要であり、既に取組みを進めている団体を含め、十勝観光連盟や道東道とかち連携協議会、シーニックバイウエイなどの関係団体と広域的に連携協力し、一丸となって十勝をPRしていくことが必要であると考えている。

本町には町外・管外から数多くのパークゴルフ愛好者が訪れており、とりわけ発祥のコースである「つつじコース」は、利用者の2割程度が十勝管外からの愛好者であると予測され、これらの方々の多くは、本町地区の飲食店で昼食を摂ら

れているとのことである。本町では、現在のところ、ご当地メニューの開発というような段階には至っていないが、町内の有志で組織しているグループが主体となつて行っている「そばまつり」や「ニラとゆり根を食する集い」など地場産品

を活用した独自の取組みがあり、こういった取組みがきっかけとなり、地元の飲食店を交えた中で、ご当地メニューの開発・販売に発展し、地元商店街や町の活性化につながっていく、それを行政が助成、応援をするという体制の中で、ご当地メニューが出てくれば大変私どももありがたいことだと思ふし、また町としても当然そうした方向に力を入れていくことも必要なことだと思つている。

食に関しては、ゆり根や、長いも、インカのめざめ、和稔じよなど、幕別の特産品をいかに加工して一般の方に食べてもらうか。

それが大きな問題・課題であると思つている。

イベントのときに、生産品を提供すること、また農家の皆さんの協力をいただく中で、それらをどんな形で商品化し、観光に結びつけていくか、まさにグリーンツーリズムもそうであるが、関係者の皆様のご意見等をいただく中で今後取組んでいくことが大事であると思つている。

幸い、町内には特産といわれる農産物にも恵まれているうえ、料理に関するNPO法人や団体を含め、料理に造詣の深い人材もいることから、これらの方々のご協力をいただきながら、飲食店の組織や商工会サードビス部会などへの働きかけ、そこで一生懸命頑張つていただける人材の育成が必要なことと思つている。

行政が即関わるのみでなく、色々な方々のご協力を得ながら、連携を密にする中でそうした方面の取組みを関係団体との協議の中で行っていききたい。



高速道路イメージ図